

発売前の本のゲラ（原稿）を 影響力のある読者に届けるwebサービス

出版デジタル機構 新規事業推進部 藤吉信仁



■NetGalleyとは？

取次会社から毎朝届く箱を開封した際に、「これ、誰に薦めたらいいんだろう」「思った本と違ったな」と頭を抱えたことはありませんか？ 売るべきお客様の顔がしつかりと思ひ浮かんだ状態で、新刊が入荷するのを今か今かと待ち受ける、そんなことができたらと思ったことはありませんか？ それを実現するための第一歩になるうと2017年10月にスタートしたのが、webを活用した紙書籍の販促サービス「NetGalley（ネットギャラリー）」です。

NetGalleyは、一言で表現するならば「ネットゲラを配布するサービス」です。「ゲラ（英語で「ギャラリー」とは、本の製作過程で校正に使う試し刷りのこと。NetGalleyは、書店員の方々に発売前の本にいち早く目を通していただくことで、新刊のプロモーションを行うと同時に、仕入や選書に活用してもらおうという画期的な仕組みです。2018年6月現在、出版社45社がゲラを提供し、2300名を超える方が登録・利用しています。

NetGalleyには、文芸書のほか、絵本、実用書、ビジネス書、理工書などさまざまな作品が掲載されています。それらに対して「ゲラを読みたい」というリクエストを出し、登録いただいたプロフィールに基づいて出版社が承認を行うことで、ゲラをダウンロード

して読むことができます。この仕組みにより、製作コストの関係で配布用のゲラを作る機会がなかった作品も、書店員の方々に届けることができるようになります。情報収集のツールとして、ぜひご活用ください。

■会員登録・利用は無料！

Net Galleryは、出版社からゲラ掲載料を頂戴して運営しており、書店員の方々は無料で登録・ご利用いただけます。本好きのスタッフみなさまでご参加ください。手分けして、日々の新刊発売に備えていただければと思います。

読んだ作品のレビューやフィードバックを出版社に直接届けられる投稿機能が備わっていることも、Net Galleryならではの特徴です。レビューがPOPや新聞広告に採用されるケースや、お礼のメッセージが届くこともあります。出版社はレビューやメッセージを通して会員とコミュニケーションを図ることで、自社の作品を応援してもらえる「本の応援団」を築こうとしています。多くの会員が作品のプロモーションに参加することで、映画の試写会のように発売前の盛り上がりをみんなで作っていただけることも、Net Galleryの魅力のひとつです。

参加出版社は続々と増えています。書店員のみならず、ぜひ「本の応援団」にご参加ください！

参加出版社の声

朝日新聞出版 営業本部 販売部 次長 前田康弘

書店員さんのネットワークが強力な後押しに

弊社は2017年10月からNet Galleryに参加しています。参加が決まった際に意識したのは、「新刊・既刊、ジャンルにこだわらず、いろいろな作品を公開してみよう」「可能な限り読者制限は設けず、間口を広げておこう」ということでした。これまでに14作品（文芸書8点、児童書2点、コミック2点、新書1点、ビジネス書1点）を掲出しています。その中からいくつかの事例を報告させていただきます。

リアクションが大きいジャンルは、やはり文芸書です。特に道尾秀介さんの『**風神の手**』（2018年1月刊）は、公開直後から多数のリクエストが寄せられ、さらにある出来事がきっかけとなってリクエスト数が急増しました。啓文社の三島政幸さんがゲラを読んで激賞してくださり、そのコメントがSNSで拡散されたのです。書店員の方々の横のつながりをまさに肌で感じられる瞬間でした。こうした追い風もあって『**風神の手**』は発売前から大いに盛り上がり、発売後の初速も非常に良く、おかげさまで重版となっています。

2万部超の増刷につながった「既刊の公開」

文芸書で反響の大きかった事例をもう1件ご紹介いたします。作品は、今村夏子さんの『星の子』（2017年6月刊）。発売前の新刊のゲラを掲載するのではなく、既刊の内容を公開したケースです。「読んでもらえれば、作品の素晴らしさをきつとわかってもらえる。しかし、接する機会がなかった読書好きの方も少なからずいるのではないか」という仮説から、掲出を決めました。結果、我々が想定していた以上のリクエストが入り、店頭で応援してくださいる書店様も少しずつ増えて、重版につながりました。

特筆すべきは、その後の動きです。公開が長期にわたったため、2017年末に一旦アーカイブ化していたのですが、翌月、本屋大賞にノミネートされたのを機に再掲出を試みました。そこで一気にリクエストやレビューが増えたのです。このタイミングでの再掲出については、社内で「あざといのでは?」「かえって反感を買わないか?」というネガティブな意見もありました。ただ、ある書店員の方から「本屋大賞に参加するのは楽しいけれど、ノミネート作全点を自費で揃えて読むのは正直苦しい」というお話を以前聞いたことがあり、それならば『星の子』を読んでいただくために、と考えて再掲出を決断した次第です。今回に限

り「弊社から再掲出を一切告知しない」「書店員の方のみリクエストを受け付ける」というルールを決めての公開としました。2018年1月だけで2万部を超える増刷となりましたが、NetGalleyでの動きを見るとその影響もあつたのではないのでしょうか。

コミック、児童書は多方面から反響

文芸書以外のジャンルの事例も簡単にご紹介します。コミックでは、テレビ東京AD・真船佳奈さんのデビュー作『オンエアできない!』（2017年10月刊）が3刷まで売上を伸ばしました。コミックは熱いレビューや販促物にも使えそうなおもしろいコメントが多く、メディアの方から反響が大きいのが特徴です。児童書は、これまで私たちが接することの少なかった図書館員の方や教育関係者からレビューが寄せられており、作品の対象年齢をアドバイスいただくこともあります。ビジネス書や新書は、思ったほどにはリアクションがなく、ジャンルとして模索が続いています。NetGalleyによつて、私たちが書店員や読者のみなさま、さらに図書館・メディアの方々と、これまでより格段に広くつながることができたのは間違いありません。弊社はこれからもおすすめ作品を幅広くご案内していきます。お時間がありましたらぜひサイトを覗いてください。お待ちしております!

書店員の声 その1

幕張 蔦屋書店 後藤美由紀

NetGalleyを利用し始めたのはほかの書店員の方のSNSの投稿がきっかけです。「ゲラを自分で選んで読めるなんて！」と感動した覚えがあります。国内小説、児童書、コミックエッセイなどを中心に読んでいます。自店で売りたいと思った作品は、今までと同様に出版社に発注します。

読後に感想を投稿する機能があるので、その作品を「売りたい！」と思った書店員同士、あるいは書店員と出版社が交流できるSNS的な仕組みができていけば、さらに活性化するのではないのでしょうか。作り手・売り手・チエーンといった垣根を越えて生み出されるベストセラーが、もっと増えるのではないかと思っています。

NetGalleyはこの業界に風穴を開けてくれました。そこに新しい風を通すのは、私たち書店員です。

書店員の声 その2

文教堂書店 北野店 若木ひとえ

きっかけは、宮下奈都さんの『つばみ』（光文社・2017年8月刊）でした。「つばみ応援団」への参加条件が、NetGalleyでゲラをダウンロードして読むこと。「紙のほうがいいのに」「NetGalley?」なんだからよくわからないな」と思いながらも、応援団に入りたい一心で挑戦してみました。いざやってみると、タブレットに不慣れな私でもサクサク読めました。その後も数回利用しています。発売前にゲラを読んで本の内容がわかれば、発注数や展開の仕方を考える時間ができます。それは大きなメリットです。入荷してから慌ててPOPを作ったりせずとも済みます。人手不足の現場では切実に、作業できる時間は限られているのです。

今後は絵本でも利用したいと思っています。

NetGalley で本の応援団になろう！



 NetGalley™

<https://www.netgalley.jp>

書店様は無料でご利用いただけます。